

科爾沁右翼前旗	一三、四一五・〇四〇	一〇〇、六九〇	六〇、一〇七	四〇、五八三	一四八・一	七・五
庫倫旗	二、二四九・七四一	五八、三六〇	三一、六〇四	二六、七五六	一一八・一	二五・九
科爾沁左翼前旗	二、八八二・五七九	一〇一、一一三	五二、八二七	四八、二八六	一〇九・四	三五・一
科爾沁左翼後旗	七、七九一・〇二六	一一三、五三六	六三、五六四	四九、九七二	一二七・二	一四・六
科爾沁右翼中旗	一九、五四三・〇七八	二五八、五五八	一四九、九三〇	一〇八、六二八	一三八・〇	一三・二
科爾沁右翼後旗	一四、四七九・〇六二	七二、七九六	四〇、九四二	三一、八五四	一二八・五	一三・〇
扎賚特旗	五、四八九・七〇七	一三、四六五	七、七八〇	五、六八五	一三六・九	二・五
通遼縣	七、五四八・八七〇	八二、三二四	四四、八六九	三七、四五五	一一九・八	一〇・九
興安東省	三、四六七・一五八	二二五、三九三	一二八、九六四	九六、四二九	一三三・七	六五・〇
布特哈旗	一〇九、一〇七・二五五	二〇〇、六五四	一一〇、九〇六	七九、七四八	一五一・六	一・八
喜扎嘎爾旗	二四、八〇四・三八〇	九五、五四三	五七、八七一	三七、六七二	一五三・六	三・九
阿榮旗	九、一四〇・四三五	一四、八一八	一〇、九七〇	三、八四八	二八五・一	一・六
莫力達瓦旗	一一、五五三・六六三	四五、四一八	二六、二七三	一九、一四五	一三七・二	三・六
巴彥旗	二〇、二三四・一〇一	三三、九三三	一九、三九五	一四、五三八	一三三・四	一・七
興安北省	四二、三七四・六七六	一〇、九四二	六、三九七	四、五四五	一四〇・七	〇・三
索倫旗	一五六、三三〇・三三三	一三三、四七七	九一、三四七	四一、一三〇	二二二・一	〇・八
新巴爾虎右翼旗	三二、八九九・二五三	二七、八九五	一九、七二四	八、一七一	二四一・四	〇・八
新巴爾虎左翼旗	三〇、三六六・〇七五	一三、六四二	九、〇〇八	四、六三四	一九四・四	〇・四
陳巴爾虎旗	二六、八一六・五八二	一九、七三二	一三、六〇二	六、一一〇	二二二・三	〇・七
額爾克納左翼旗	二〇、四六九・二六六	七、八一〇	四、五五九	三、二五一	一四〇・二	〇・四
額爾克納右翼旗	二五、三八二・二八八	一二、四二八	七、八〇二	四、六二六	一六八・七	〇・五
滿洲里街	二〇、二七〇・八八九	三、二二一	二、三三四	八八七	二六三・一	〇・二
海拉爾市	八・九六〇	七、八八二	四、八一九	三、〇六三	一五七・三	八七九・七
	一七・〇〇〇	三九、八七七	二九、四九九	一〇、三七八	二八四・二	二、三四五・七

一九三九年獨逸國勢調査確定人口の

發表

一昨一九三九年五月一七日施行された獨逸の國勢調査(メーメル地方、舊ダンチヒ自由市、舊波蘭領の東部地域、舊ベルギー領のオイベン・マルメデ及モレスネを除く)の速報人口は既に本誌第一卷第二號所載の如くであるが、その最後の確定人口はこの程漸く發表

を見るに到つた。既報の現住人口速報数は若干の變更を見るに到つた。

尙、獨逸國勢調査はすでに前世界大戰前より現住人口 Wohnbevölkerung 即ち調査地に住所の有する人口を對象として居り調査時に其地に現在するや否やを問はないものであるが、たゞ從來は速報人口のみ現在人口 Ortsanwesende Bevölkerung に據つてゐたのを今回の調査に於ては兩數字共に現住人口一本立てに改めら

れてゐる。なほ今回は統計數字の利用效果に萬全を期するため右の現住人口の外に更に之から兵役や勞働奉仕の義務の爲に調査地に現住する者を差引いた定住人口 ständige Bevölkerung なるものをも集計することになつてゐるが、以下の總人口が現住人口を謂ふものであること云ふ迄もない。

總人口の最後の確定數字

本調査施行地域(1)の總人口(現住人口)の最後の確定結果は次の如くである。

總數

一九三九・五・一七	七九、三七五、二八一
前國勢調査時	七六、四四〇、八五八
兩調査時増減	(+) 二、九三四、四二三(中三・八%)
男	子
一九三九・五・一七	三八、七六一、六四五
前國勢調査時(2)	三七、〇八九、八八八
兩調査時増減	(+) 一、六七一、七五七(中四・五%)
女	子
一九三九・五・一七	四〇、六一三、六三六
前國勢調査時(2)	三九、三五〇、九七〇

(1) メーメル地方、ダンチヒ自由市、舊波蘭領の東部地方、オイベン、マルメチ及モレスネを除く。  
 (2) 舊領地(ザール地方を除く)一九三三年六月一日、ザール地方は一九三五年六月二五日、オストマルクは一九三四年三月二二日、ズデーテン獨逸地方は一九三〇年二月一日。

尚、本調査施行區域の面積は五八三、四〇八・〇八方料、一方料當りの人口密度は一三六・一人となる。

一九三三年以降の面積及人口増加

本調査の確定數字は右の如くであるが、いま本調査に於ける除外區域並に其後の獨逸新領土及勢力圏の人口を加算すると次の如くで、所謂大獨逸の總人口は九千七百萬に近く國勢伸長の跡を如實に物語つてゐる。

一九三三年首	面積	人口(1)
ザール地方(三五年三月)	一、九三五	八四三、四四〇
三五年三月—三八年三月	四七〇、五五五	六九三、六五六
オストマルク(三八年三月)	八三、七六四	六六五、〇三六

三八年三月—十月

五五三、〇九〇

七五、九六六、八三三

ズデーテン獨逸地方(三八年十月)

二九〇、九一九

三、〇八八、六九九

三八年十月—三九年三月

五三、四〇八

七九、三七五、二八一

ボヘミア及モラヴィア兩保護領(三九年三月)

四八、九九五

七、〇〇〇、〇〇〇

メーメル地方(三九年三月)

二八、四八八

一、五四〇、六九四

三九年三月—九月

五、六二五、五六

七九、五九、九七五

ダンチヒ自由市(三九年九月)

一、九五一

四〇、七、五二七

三九年九月—十月

五八、二〇七

七九、九七〇、四九三

舊波蘭領東部地方(三九年十月)

九、九七四

九六、七〇〇、〇〇〇

三九年十月—四〇年三月

六八、〇八一

八九、五、五〇〇

オイベン、マルメチ及モレスネ(四〇年五月)

一〇、五六二

六八、五九〇(2)

一九四〇年五月

六八、一三七

八九、六、四〇〇

獨逸及兩保護領合計

七三〇、二九六

九、六、三三三(2)

(1) メーメル地方、ダンチヒ、舊波蘭領東部地方及オイベン・マルメチを除く獨逸領土に對しては一九三九年の調査人口、ボヘミア及モラヴィア兩保護領に對しては一九四〇年首の推定人口、メーメル地方に對しては一九四〇年首の算定人口、ダンチヒ自由市に對しては一九二九年の調査人口、舊波蘭領東部地方に對しては一九三〇年の調査人口、オイベン、マルメチ及モレスネに對しては一九四〇年首の算定人口をとる。

(2) 舊プロシア領地及びモレスネ中立地帯の面積及び人口にして國境の最後の決定は未だ行はれず。

獨逸國はその人口數に於ては今や歐洲に於てソ聯邦(歐露のみ約一億五千萬)に亞ぐ第二位にあり、獨逸より遙かにへだて、大ブリテン(北アイルランドを含めて約四千七百五十萬)、イタリア(四千四百四十萬)、フランス(四千二百萬)及びスペイン(二千五百萬)が續いてゐることになる。全歐洲人口五億三千万の五分の一、又もしソ聯邦と大ブリテンを除けば其の三分の一近くの人口は今や大獨逸の勢力圏内(舊波蘭領内の總督領を含む)に生活してゐることになる。

尚、三九年の調査の行はれたる領域内の一九三三年當初の總人口は約七六、四四一、〇〇〇人で此の領域内に於ける約六箇年間の人口増加は二、九三四、〇〇〇

波蘭總督領最近の推定人口

ボヘミア及モラヴィア兩獨逸保護領の人口に就いては從來精確な調査數字を缺いてゐたが、最近生活必需品カードを基礎として推計された所によると一九四〇年首に於て、三九年以降來往せる獨逸人及び軍人兵士を除き、

七、三八〇、〇〇〇人	
と推定される旨獨逸統計局は發表してゐる。兩保護領の面積は四八、九五九方料であるから一方料當りの人口密度は一五〇・七人の割合となる。尚プラーゲ以下四大市の人口は次の如くで(一九四〇年中期)、四大市の人口は全人口の約五分の一(二二・六%)を占めてゐる勘定となる。	
プラーゲ	九七六、七五九
ブルユン	二九五、四〇〇
オストラウ	一一九、九九三
ピルゼン	一一九、八三二
同じく波蘭總督領最近の推計人口は一九四〇年六月一日現在で、	一一、一〇七、四一八人
で、面積九三、八七〇・五二方料、一方料當り人口密度一二九人となる。	
尚ワルシャウ市の人口は約百三十萬七千と發表されてゐる。	